

●数値目標

番号	項目	初期値	目標値	所管課	数値目標の設定理由	目標値の設定根拠
【1】	災害対策に対する満足度(%)	28.5 (2020年度)	48	防災交通課	住民の災害対策に対する関心は高く重要度が高い。災害対策に対する満足度の向上は、安全・安心なまちづくりにつながると考えるため。	市民意識調査で、安全・安心に関する重要な指標である。半数程度の市民が満足できるよう、年2%上昇を目標とする。
【2】	防犯や治安に対する満足度(%)	36.3 (2020年度)	43.3	防災交通課	住民の防犯対策に対する関心は高く重要度が高い。防犯や治安に対する満足度の向上は、安全・安心なまちづくりにつながると考えるため。	第5次総合計画期間では、8.4%上昇したことを参考に、年0.7%上昇を目標とする。
【3】	公共交通の利便性に対する満足度(%)	25.6 (2020年度)	30	防災交通課 移動政策室	公共交通の利便性は暮らしやすさの要因である。将来的に高齢者が増加すると、車が運転できず、移動が不便になり住みづらいつ感じる市民が増加する可能性がある。利便性が向上することで、快適で暮らしやすいまちづくりが進むと考えるため。	第5次総合計画期間では、約20~25%で推移していた。満足度が3割となるよう目標を設定する。
【4】	日進市を住み心地のよいところだと感じる市民の割合(%)	77.2 (2020年度)	80.5	企画政策課	住宅都市として発展してきた本市にとって「住みやすく、暮らしやすい」というイメージは今後のまちづくりにおいても重要である。住み心地のよいところだと感じる市民の割合が向上することは、快適で暮らしやすいまちづくりが進んでいる結果と考えるため。	過去10年の市民意識調査で最高値であった平成26年度の数値(80.5%)に戻すことを目標とする。

●施策4-1「安全・安心な暮らしと便利な地域交通網の実現」：重要業績評価指標(KPI)

番号	項目	初期値	目標値	所管課	KPIの設定理由	目標値の設定根拠
①	自主防災組織の世帯カバー率(%)	92.7 (2019年度)	100	防災交通課	大規模な災害が発生した場合に地域の自主防災組織による共助が重要となる。自分が住んでいる地域で自主防災組織が活動していることは、日頃からの安心感に大きく繋がると考える。世帯カバー率が向上することで、【1】【4】の向上が期待できる。	市内全ての地域で自主防災組織が機能していることが望ましいので、市内全世帯のカバーを目標とする。
②	消防団員の定員充足率(%)	85.0 (2019年度)	100	防災交通課	消防団員を確保することにより、火災を始め災害時における地域防災力の維持、向上を目指す。自分が住んでいる地域で消防団が活動していることは、日頃からの安心感に大きく繋がると考える。定員充足率が向上することで、【1】【4】の向上が期待できる。	現状、条例に規定する団員定員を満たしていないため、前年度比で4人の団員増、定員の確保を目標とする。
③	刑法犯認知件数(人口1,000人あたり)(件)	4.8 (2018年度)	3.9	防災交通課	刑法犯認知件数の減数を目標とすることで、安全安心なまちづくりを目指す。刑法犯罪が少ないことは治安のよい地域であるという根拠の1つとなるため、刑法犯罪の減少は、【2】【4】の向上が期待できる。	2018年度(初期値)で約450件であった刑法犯認知件数を年々減少させていくために、前年度比で10件の減数を目標とする。
④	くるりんばすの利便性に対する満足度(%)	12.5 (2020年度)	22.5	防災交通課 移動政策室	移動のしやすさは暮らしやすさの要因である。特に本市が運営するくるりんばすは、車がない市民にとって大切な移動手段の1つである。くるりんばすの利便性に対する満足度が向上することは【3】【4】の向上が期待できる。	第5次総合計画期間では、14%下降した。満足度を改善させるため、路線・タイヤの改編等により、年1%上昇できるよう目標を設定する。

●主な事業

番号	事業名	所管課	事業内容	数値目標又はKPIに資する理由		数値改善のための取組や道筋
1	交通安全対策事業 (通学路交通安全プログラム整備事業)	道路建設課	歩行者が安全で快適に通行できるよう歩道を整備し、バリアフリー化した歩道や児童生徒のための通学路整備を行います。	数値目標	歩道整備や路面にカラー塗装を敷設し、歩行者と自動車の通行空間を明確化することで、交通事故の減少に寄与すると考える。安全な交通誘導が図られ、まちの安心感が高まることが予想されるため、【4】の目標に資する。	道路幅員が狭いなどの歩行空間が十分確保できていない箇所や、歩行者数が多い通学路に、カラー塗装等の対策を行うことで指標の数値が改善すると考える。
				KPI	-	
2	公立保育園環境改善事業 (保育園防犯対策事業)	こども課	子どもや保護者が安心して保育園等の子育て支援施設を利用できるよう、防犯カメラを設置します。	数値目標	保育園等に防犯カメラを設置することで、犯罪の抑止効果が期待できる。また、園児の保護者や近隣住民が視覚的に安心感を得ることができると予想されるため、【2】【4】の目標に資する。	老朽化が進むカメラの更新や、現状死角となっている箇所に対して設置台数を増やすことで指標の数値が改善すると考える。
				KPI	保育園等に防犯カメラを設置することで、犯罪の抑止効果が期待できることから、③の指標に資する。	
3	防犯施設維持整備事業 (防犯環境整備事業、防犯カメラ設置費補助事業)	防災交通課	防犯灯、防犯カメラの設置や地域の防犯カメラの設置費補助により、防犯環境の充実を図ります。	数値目標	防犯施設を整備することで、犯罪の抑止効果が期待できる。また、地域における安全で安心な生活環境の向上が図られると予想されるため、【2】【4】の目標に資する。	要望箇所への防犯灯設置や防犯カメラの効果的な整備、地域が設置する防犯カメラに対する費用を補助することにより犯罪抑止効果が向上し、指標の数値が改善すると考える。
				KPI	防犯施設を整備することで、犯罪の抑止効果が期待できることから、③の指標に資する。	
4	災害対策推進事業 (地域強靱化計画等の浸透・災害対策本部の設置訓練)	防災交通課	緊急時に迅速な対応ができるよう、職員に対して、本市の地域防災計画や業務継続計画、地域強靱化計画等の各種計画の浸透を図るとともに、職員向けの災害対策本部の設置訓練等を実施することで、能力の向上を図ります。	数値目標	職員に対し防災関連計画等の浸透を図り、災害対策本部の設置訓練等を実施することで、災害時に迅速かつ的確な対応を可能にする。市の体制強化を公表することで、災害時の市民の安心感が増加すると予想されるため、【1】の目標に資する。	庁内各課等の長で構成する防災推進連絡会議を設置し、実務担当として各課等に防災推進員を置き、各課等内での防災関連計画等の周知を行う。必要に応じて作業部会等を開催する。
				KPI	-	
5	道路長寿命化事業	道路建設課	道路施設の老朽化に対する計画を策定し維持管理を行います。また、橋梁や歩道橋については、予防保全の観点から長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を実施するとともに、5年に1回の定期点検を行います。	数値目標	橋梁、横断歩道橋等の道路施設を適切に管理、維持することで、将来にわたって必要なインフラ機能を発揮し続けることにより、安心、安全の確保に繋がると、【4】の目標に資する。	長寿命化計画に基づき必要な対策を適切な時期に効率的、効果的に実施することで、指標の数値が改善すると考える。
				KPI	-	

番号	事業名	所管課	事業内容	数値目標又はKPIに資する理由		数値改善のための取組や道筋
6	管路改良事業 (下水道施設の老朽化対策)	下水道課	持続的な下水道機能確保のため、処理施設の計画的な修繕と老朽化施設の改築を検討し、より一層効率的・効果的なストックマネジメントの推進を図ります。	数値目標	ストックマネジメント計画に基づく下水道施設の計画的な改築更新を行うことで、街を清潔に保ち、身近な環境を守ることができることから、【4】の目標に資する。	平成31年度から継続して施工しているストックマネジメント計画に沿った計画的な下水道施設の改築を行うことで、指標の数値が改善すると考える。
				KPI	-	
7	災害対策推進事業 (民間事業者等との災害時協定の締結)	防災交通課	民間事業者及び大学等との協力体制を強化し、災害時における物資や資機材の調達、避難所としての場所提供等の締結について拡充を図ります。	数値目標	民間事業者及び大学等と災害協定を締結することで、災害時における物資や資機材の調達、避難場所の確保が可能となる。災害時に必要な物資等が充足することは、避難所を利用する可能性がある住民の安心感につながると予想されるため、【1】の目標に資する。	民間事業者及び大学等に協力を働きかけ、積極的に災害協定を締結していく。
				KPI	-	
8	消防団事業 (地域消防力強化事業)	防災交通課	消防団員の確保とともに、機能別消防団員等、新たな体制の導入を検討します。	数値目標	消防団等の組織や体制を整備することで、火災などの災害時における地域防災力の強化が図られることから、【1】の目標に資する。	消防団事業に係る広報や啓発活動、各分団による地域での団員確保に努めるとともに、火災や災害時における女性による活動の重要性、市内5大学の持つ人材資源の活用を踏まえた、新たな組織、制度づくりを行うことで、地域消防力の強化が図られると考える。
				KPI	新たな体制の導入等、消防団に係る環境を改善し、既存消防団員の流出防止や新しい消防団員の確保を進めることは、②の指標に資する。	
9	災害対策推進事業 (業務継続計画の策定及び緊急時訓練の実施)	防災交通課	新型コロナウイルス感染症等、新たな感染症の発生や庁内情報システムに対する外部からのサイバー攻撃等に対応できるよう、業務継続計画・対策マニュアルの作成やシミュレーション訓練の実施等、各種の取組を推進し、様々な危機に対して備えます。	数値目標	関係各課に緊急時の業務継続計画の策定を促し、計画に基づく訓練を実施することで、緊急時に迅速かつ的確な対応を可能にする。市役所内の体制強化を公表することで、緊急時の市民の安心感が増加すると予想されるため、【1】の目標に資する。	関係各課に緊急時の業務継続計画の策定を促す。また、計画に基づく訓練を実施し、緊急時の迅速な対応ができる体制を構築することで、指標の数値が改善すると考える。
				KPI	-	
10	新型インフルエンザ等対策事業	健康課	新興・再興感染症対策として、死亡率、感染率等を考慮した日進市新型インフルエンザ等対策行動計画をもとに、初期発生段階からの国内外、県、他自治体の情報収集及び市民への迅速な情報提供を行い、市民生活の混乱を防ぐとともに、市民一人ひとりの的確な予防行動を促します。	数値目標	感染拡大を可能な限り抑制し、市民の生命及び健康を保護するとともに、一人ひとりの的確な予防行動を促すことは、【1】の目標に資する。	国や県、その他関係機関等と相互に連携協力し、自らその区域に係る新型インフルエンザ等対策を的確かつ迅速に実施し、市内において新型インフルエンザ等対策を総合的に推進する。
				KPI	-	
11	公共交通対策事業 (くるりんばす運行事業、くるりんばす利用促進事業)	防災交通課 移動政策室	本市の発展に合わせた移動需要の変化や市民の要望等を踏まえ、くるりんばすと民間路線バス、鉄道等の役割分担を明確にし、新たな地域公共交通計画を策定して市内交通網の改善・充実を図ります。 また、公共施設が集積する市中心部と鉄道駅を南北に結ぶ民間バス路線を、本市の公共交通軸として位置づけ、利用促進と路線維持に努めます。	数値目標	くるりんばすを適切に運行することで市民の移動を支えていくことは、【3】の目標に資する。	地域公共交通計画を策定し、市内公共交通の役割分担を進める中で、くるりんばすに求められる役割を明確化し、効率的な運行を進めていく。
				KPI	くるりんばすを適切に運行することで市民の移動を支えていくことは、④の指標に資する。	
12	公共交通対策事業 (移動支援事業)	防災交通課 移動政策室	くるりんばす以外の移動支援について多角的な視点から研究し、くるりんばすではカバーできない移動需要に対して相互連携を図ります。	数値目標	地域交通のニーズは拡大・多様化しており、従来の公共交通機関だけでは補完できない。今後は、新たな移動手段により市民の移動を支えていくことで、快適で暮らしやすいまちになると予想されるため、【3】【4】の目標に資する。	デマンド交通をはじめとした新たな移動手段について、地域性等を考慮して実施を検討していく。
				KPI	-	
13	産学官モビリティ共同研究事業	防災交通課 移動政策室	自動運転技術の公共交通への応用等、新しい技術が活用できるよう、情報の収集に努め、導入をめざします。	数値目標	地域交通のニーズは拡大・多様化しており、従来の公共交通機関だけでは補完できない。今後は、新技術により新たな市民の移動手段を創出していくことで、快適で暮らしやすいまちになると予想されるため、【3】【4】の目標に資する。	適切なパートナーと検討を進めていく。
				KPI	-	
14	地域福祉推進事業 (高齢者等移動支援推進事業)	地域福祉課	福祉有償運送・住民主体の互助による輸送等、地域での支え合いによる移動の取組を支援します。	数値目標	公共交通を利用できない高齢者・障害者等移動制約者の足を確保したり、地域での支え合いによる移動支援が継続することでより広い視点での移動需要を満たすことになり、【3】の目標に資する。	福祉有償運送事業者への支援（ドライバー養成や助成制度の創設）や住民主体の活動への支援（助成制度の創設）を実施していく。
				KPI	-	